2012年 気持ち新たにひとりさくら道

（2012年4月28日～4月30日）

山猫＠滋賀

■はじめに

昨年、さくら道ウルトラは開催されたものの、体力の衰えは如何ともしがたく、とてもレースでの完走は無理と判断し、1日早く尾張一宮をスタートする時間に追われないひとりさくら道を行ったが、夜の眠気と寒さで数え切れないほどの休憩と仮眠、雷雨による悪天のために幾度となく待機を余儀なくされ、最後は足裏の肉刺でトドメを刺されるという結果に終わった。白川郷に着いた時は真っ暗で、「白川郷の湯」に入った後、雨が降り続く道の駅「白川郷」で寒さを凌ぎながら、朝までベンチで一夜を過ごすというオプションまで付いてしまった。時間調整しながらゆっくりと無理せずのさくら道計画はとんださくら道となってしまった。

その後は調子を崩したまま年末まで過ぎた。ひと晩、風が入ってくるベンチで過ごすことが後々まで引きずることになるとは思いもせず、甘い考えが疲労を残したと後悔し、力が落ちた今の私には白川郷を如何に越えるかが大きなポイントになっていた。今年こそ白川郷を越えて飛越峡合掌ラインを自分の足で踏みしめ、五箇山トンネルも越えたい。兼六園の1500本佐藤桜にも逢いたいとの思いは強かった。なかなかそれを許してくれないのが、さくら道であり、何よりも自分の体力と気力だった。

そういう思いの中、今年は白鳥を15時頃にスタートし、夜間に蛭ヶ野から白川郷を越えて上平に入ろうと考えた。道の駅「上平ささら館」を朝5時に着けば、ちょうど明るくなった頃で景色も楽しめる。これなら金沢に日が暮れた頃に着けるだろう。バスや長良川鉄道の時刻を調べると高速バスは郡上八幡まではあるが、白鳥だと16時半頃のスタートになってしまう。それなら時間は掛かるが、まだ本数の多い長良川鉄道の方が早くスタートできる。車窓からいろいろな景色を眺められるのも楽しいことだろうと長良川鉄道で白鳥に向かうことにした。

28日はGW休み初日で、仕事も昨年ほど忙しいこともなく、当日は睡眠をたっぷり取れるし、身体も休めさせることができる。日暮れ前にスタートできるのは日中暑くなっても影響は少なく、条件的には最高ではないかと思った。ということで準備も早めに行い、28日を迎えることとなった。

■当日

9時半過ぎに家を出て、米原経由で岐阜に向かう。快晴の素晴らしい天気でGWが始まった。岐阜に着くと荷物を駅前のサークルKより宅配便で「金沢ゆめのゆ」に送る。着替えもしなければならなく、以外と時間が掛かり、電車を1本早く乗ったのは正解だった。本当は美濃太田で荷物を送る予定でいたが、果たして駅前に送るところがあったか疑問だったので、確実な岐阜駅前から送った。

岐阜からは高山本線に乗り換える。走る姿なので、車内では違和感があった。一昨年の立山に行く時に1度だけ乗ったことがある路線だ。各務ヶ原、鵜沼と通り過ぎて行くと中山道を走った時、この辺りを進んだという記憶が甦り、あの頃は脚力もあって、元気だったなぁ～と振り返る。車内は大きな荷物を持ったカップルや女性グループの姿もあった。美濃太田には12時49分に到着。長良川鉄道のホームに行くとすでに電車は停まっていた。下車する大島までは1600円。真昼でもあり、ホームは暑い。電車は1両編成で13時11分発。電車が発車すると長閑な田園地帯を線路は真っ直ぐに伸びており、見晴らしが良かった。この付近は小山が多く、それも迫っており、雲ひとつない青空の下、新緑が鮮やかで、今では珍しい窓が開く車両で、開いている窓から入ってくる外の空気が何と気持ち良いことか。

関で別の電車に乗り換えする。時刻表には「ゆら～り眺めて清流列車」になっていたので、窓際1列の座席からでないと外の景色が眺められないので車両の乗り換えになったのだろうと推測する。「うだつと和紙」で有名な美濃で乗客の数は一気に減った。「湯の洞温泉口」からは長良川を何度も渡るので、その度に電車は速度を落として乗客が長良川を見下ろせるようにした。乗客は常連さんか、

一見さんかに分かれるので、窓から覗き込む人は限られている。日差しが強くて車内は暑い。

さくら道を走っている時は風光明媚に思える長良川だが、電車はスピードが速過ぎて、知らないままに通り過ぎて行く感じで、思っていたほどの眺めではなかった。それは走っている時は余裕がなく感じなかったが、見る楽しみ、感じる楽しみは自分の足を地面に付けて進んでこそのものだと感じる。「みなみ子宝温泉」は駅のホームに温泉があって賑わっていた。長良川鉄道の切符を持っていると割引になる。これはお年寄りにも優しい温泉だ。

「州原」では例によって鯉のぼりが川幅いっぱいに靡いていた。駅を降りる高校生もいた。11年前に走った初めてのさくら道、ここで休憩していると手に持ったアップルジュースを黙って私に手渡し、一目散で家に戻って行った少年のことを思い出した。あの少年は今なら高校生くらいではないだろうか？。もしかして先ほど降車した高校生かもしれない。そんなことが頭を過ぎった。懐かしく、我がさくら道の中で頭の隅から離れることのない思い出だ。「美並」ではカヌーの姿も見えた。いつも暗くなって見落としてしまう「深戸」を過ぎると長良川沿いには緑いっぱいの桜並木が続いた。佐藤良二さんが植えられた美並の桜並木だ。この辺りから、さくら道のコースが並行になるので位置関係がよりわかりやすくなっていた。

「郡上八幡」に着くと20分ほどの休憩時間があった。ここで観光客はみんな降りてしまう。周りの風景を見たり、電車の写真を撮ったりして時間を過ごす。昨年はここ郡上八幡から郡上大和まで4駅だったが、電車に乗って移動したのを思い出す。北に進んでも線路は真っ直ぐなところが多く、先までよく見える。みなみ子宝温泉で乗ってきた電車を背中にプリントした大男が郡上八幡からずっと機関士の横に立って、話し掛けていた。運転の邪魔をしているのか、機関士と顔馴染みなのかわからないが、

うっとおしく感じる。そんな中、前方には山頂の方が少しだけ白くなった白山が見え始める。そして、目的地の「大島駅」には15時16分に到着。民家と田畑の間にある駅で駅舎はバス停みたいだった。

■ひとりさくら道スタート

長良川鉄道・大島駅（スタート）　　4月28日　　15時18分

今回は時間的なものもあり、長袖、ロングタイツでスタートした。駅前を出るとすぐ前を国道156号線が通っているが、その手前の道を通って、少し先で国道に合流するコースを進んだ。民家の石垣の上や土手にはピンク、紫、濃い紅色などの色鮮やかな草花のような花が地を這うように咲き乱れていた。どれも緑の野菜の隅に咲いており、目に優しく癒してくれる。さくら道沿いではこのような光景が目立った。スタートして1kmほど進んだ国道156号線に入った時、前にデイパックを背負って歩いているランナーを発見。「ひとりさくら道している仲間がいるなぁ～」と思って近付くとボクシ～さんだった。こんなところで遭遇するとは。ボクシ～さんもさくら道に拘って、大会がない時はひとりさくら道をされている。2007年は岩田坂付近で抜かしたこともあった。ボクシ～さんは早朝に美濃に着いて5時から走り出したそうだが、真夏のような暑さでバテバテだと言われていた。スタートして10時間以上経過しているので消耗も激しいことだろうし、これから先の夜が大変だと思う。

今スタートしたばかりで元気な私は「奥美濃大橋」を渡ると鯉のぼりの向こうに見える白山を眺める。白鳥から見ると雪は少ない。過去のさくら道同様に民家の間を通って顕彰

碑に上って行く。いつものことながら、左頭上にある「油坂峠道路」の雄大なロータリーの迫力には圧倒される。道端には牡丹桜、菜の花や白とピンクの梅、道端の鮮やかな草花など咲き乱れていて、花のオンパレードだ。色鮮やかな花は心を和ませてくれる。

　最後の民家を通り過ぎようとした時、遊んでいた女の子から「こんにちわ～」と声を掛けて貰う。こういうひと言は嬉しい。顕彰碑手前では地元の方々がバーベキューをされていた。「ご苦労さん」と声を掛けて下さったが、笑うしかない。「桜守佐藤良二君顕彰碑」を眺める。隣にある樹齢400年ともいわれる「藤路の桜」は二分咲きくらい

だった。荘川桜と同じアズマヒガンなので満開は5月になってからだろう。白鳥の町並を一望しながら下って行く。途中にある「向小駄良防災センター」向かいの公園で8年前の交流会で植えた荘川桜の実生の育ち具合を確認しようとしたが、うっかり通り過ぎたようで心残りだった。

　「向小駄良」交差点を左折し、民宿「さとう」で食事しようと思って入ると食堂の営業時間は終わっていた。隣のローソンの外観は改装され大きくなっていたが、中の面積は変わらなかった。ここは通り過ぎる。路肩にある路面温度計を見ると16時を回ったというのに何と28℃を表示。これを見た瞬間、力が抜ける思いだった。ここからは緩い上りが続いており、拭

けども拭けども流れ落ちる汗が体力を消耗するので、歩き始める。いきなりボディブローのように暑さが応えてきた。1年振りに履いたロングタイツに慣れないせいか、太股や脹脛が重く、先々の不安が高まる。道端には水車が回っており、それを見て心が和む。そんな時、ロードレーサーの4人組が左端をさっそうと走り抜けて行った。後3人は女性だった。我がさくら道では珍しい光景だ。さらに道端に錦鯉の泳いでいる池もあった。私は幼い頃に平安神宮で見た錦鯉の印象が強く、今でも錦鯉を見ると立ち止まって見とれてしまう。

美濃市から長良川沿いに入る美濃地方は鯉のぼりと旗がセットで軒先に掲げられている。男の子の節句だからだが、奥美濃の自然と家並みには鯉のぼりがマッチするように思う。思わず「屋根より高い鯉のぼり、大きな真鯉はお父さん、小さな緋鯉はお母さん・・・」と口ずさんでしまった。「長滝白山神社」が左に見え、その時に長良川鉄道の電車が「白山長滝駅」に停まった。前を見ると行きの電車で機関士の横にずっとたむろしていたブルーのT

シャツを着た大男がまだいた。これは一体何者なのだ。ただ電車が好きな暇人なのか。私が乗った電車は「美濃白鳥」行きだったので、1時間ほど白鳥で時間を潰し、「北濃」行きに乗り、今折り返して来たようだ。ひとりで走っているので、どうでも良いような疑問でも何か考えてないと持たない。

すぐ右側に道の駅「白鳥」があった。ここの表示には白鳥の下に（白山長滝）と書かれている。先ほどあったのは長滝白山神社だ。長良川鉄道の駅名もそうだが、何故、長滝と白山が逆になっているのか、過去からの疑問だ。白山長滝の方が言いやすいからか？。普段から疑問を持つ方なので、気になって仕方ない。

16時を回っていて道の駅の食堂が開いているか心配だったが、まだ営業中だったので、中華そばを注文した。汗びっしょりなので温かいおしぼりが気持ち良い。あまりの汗を見かねておしぼりを追加して下さった。思いっ切り冷水を飲んで水分補給する。店を出るとまた白山が真正面に見える。目の前に山が迫っているが、手前の山に隠れて稜線のわずか上だけしか見えなかった。

「北濃駅」前を通過すると、先ほどのロードレーサー4人組がいた。この先で抜かされなかったので、ここでUターンしたのだろう。その先で右に大きくカーブする橋があるが、この橋を渡らずに真っ直ぐに旧道を進む。日陰だったこともあるが、1時間経って25℃まで下がっていた。思うように走り続けることができず、走ったり歩いたりを繰り返す。もう一度、長良川に掛

かる橋のところで左折して旧道に入る。ここは長良川の流れが激しくなるところだ。迂回するような形で国道156号線に再び合流すると左に「高鷲商工会館」が見えて来た。

高鷲商工会館（16．6km）　　4月28日　　17時40分

国道156号線を横断して、また旧道に入るが、高鷲市街地は道路工事中できれいに舗装されていた。ぐるっと迂回して「穴洞橋」T字路まで進む

ことになる。その手前の眼下には「湯の平温泉」があり、ここは桜の花が半分程度残っていた。ここからダイナランドまでは上りが続くので走れないが、ダレないように頑張って歩くしかない。道路脇には除雪用の大型車両が最近まで使われていたかのように置かれていた。

上っていると所々に満開の桜があった。日陰で開花が遅れているのではないか？。スタートして20kmも進んでいないので、きつい上り坂でも、まだまだ余裕はある。新道の右側には旧道がところどころ見える。2001年の初さくら道では新道はできておらず、この旧道を上ったが、真っ黒な中、長くてきつく、どこまで坂が続くのか思ったものだった。新道に変わって、いろいろな意味で楽になったと感じる。西洞集落の桜は

今が満開だった。気温は18℃まで下がっていたが、まだまだこの時期としては暑く、汗は休む間もなく流れ出る。手袋不要だ。ダイナランド手前には本堂の屋根が立派なお寺があり、駐車場には雪の山が残っていた。ここの残

雪量は昨年と全く同じくらいだった。日中からの影響だと思うが、喉の渇きがひどく、水を飲んでも飲んでも飲み足りないくらいだ。

新しくできた橋は渡らずに旧道の「ダイナランドスキー場」前を通過。その30分ほど前から、左足裏の角質に違和感が出始めていた。昨年の肉刺のことがあるので、「こんな距離で痛みが出るとは！」という不安が過ぎる。とりあえず靴下を脱いで、大きな傷テープを左足裏に貼った。素足になると特に変化はないが、足底が繰り返し地面に当たるために若干の痛みが出たのだろう。早めの対策が功を奏したら良いと思うしかない。ここからはクネクネした上りが続く。下を見下ろすと今上ってきた道路とその先には高鷲市街地が見えるが、18時半を回り、だいぶ薄暗くなったので見辛くなり始めていた。通って来た道を振り返って見られるというのは感慨深いものがある。そして、「牧歌の里」の看板がある上り坂では時々走れた。いつもここは走れてしまうところだ。

前にPの看板があり、明かりが見えてきた。道の駅「大日岳」だ。こんなに道の駅は近かったのかと思えた。ここのトイレ、右側は使えるが、左側は使えなくなっている。ここからはしばらくの間、下りが続くので走れた。「高鷲スノーパーク」の看板が鮮やかだ。薄暗くなった「駒ヶ滝」と洞門を越えると上り坂に変わる。標高830mの看板は暗くて見えない。さらに1kmほど上り切ったところに外灯が見え始めた。「蛭ヶ野峠」だ。

蛭ヶ野分水嶺（25．1km）　　4月28日　　19時16分

先ず左側の「分水嶺公園」に進み、太平洋と日本海と刻まれている石碑を確認。すっかり暗くなっているので分水嶺は見えなかったが、今まで横を通って来た長良川と、これから見ながら進もうとする庄川はここが起点かと思うとさくら道になくてはならないのが分水嶺だと改めて思える。

今まで歩いた分、体力も温存できていたので、ここからは走ることにした。蛭ヶ野高原はすっかり静まり返っていた。ただ、蛭ヶ野で何か食べないと、次は白川郷のコンビニまでは自販機のみだ。開いている食堂もあったが面倒臭くなったので、小さな何でも屋みたいなスーパーが開いていたので、何か買おうかと思って入った。ところが、あまりにも愛想が悪かったのでグレープチューハイを1缶買っただけで店を出る。アルコールはどうかと思うが、とりあえず栄養補給。その先にもコンビニが2軒ある。2軒目がいつも寄るディリーヤマザキで、ここで鮭おにぎり、ヨーグルト、バナナブッセを買う。バナナブッセは白川郷までのおやつだ。そして、市境手前でウインドブレーカーを着る。まだまだ寒いと感じるまでにはなっていないが、全面反射タイプのウインドブレーカーを着ての安全確保も大事だ。

郡上市から高山市に入る市境の気温は10℃。この表示を見て、あまりにも気温が高く、どうも蛭ヶ野のイメージではない。まだ20時前だというのに車の数も一気に減って、真夜中みたいな雰囲気だ。下りが続く牧戸までは頑張って走ろうと気合いを入れる。最初の集落は「御手洗」で、バス停があれば写真を撮ることにした。LED3灯のヘッドライトを頼りに進むが、下りが急になったのか、緩やかになったのか、ライトが暗くて先が見辛い。その先は「下野々俣公民館前」「下野々俣山谷前」「下野々俣野口前」とバス

停が続いた。最後の「下野々俣野口前」では、停留所で何かゴソゴソ動いているなぁ～と思ったら、自転車で旅をしている寝袋姿の若者？だった。ライトが当たって眩しかったのかもしれない。まだ時間は20時25分、まだまだ朝は遠いので大変だろう。蛭ヶ野を過ぎてから、やたら小便を催すことが多くなり、30分に1回くらいの頻度だった。あまりひどいと脱水が進んでいるのではないかと気掛かりになる。夜中はほぼこのペースが続いた。

夜中でも、外灯がところどころにあるので、左下の庄川の流れが見えることもあった。静まり返った中で、庄川のせせらぎの音が何とも耳に優しく、耳を澄ますとまるで音楽を聞いているかのようで、足を止めて聞きたくなる。牧戸までの間は長いので、時々足を休ませるために歩いた。「であいの森」が見えるとその先は一気に急な下り坂に変わり、下りは終わる。暗くてはっきり見えなかったが、「飛騨INFO庄川」を過ぎると先に信号が見える。その左手前のこじんまりしたスーパーはまだ開店中だった。その前には湧き水があるので、ペットボトルに補給する。ここから御母衣集落までの16km近くは自販機が道路脇にないので、補給に冷えた缶コーヒーを飲む。そして、濃尾バス「牧戸バス」先のT字路を左折して荘川桜方面に進む。市境から牧戸バス停までの6．7kmはキロ7分を切っていた。

約9km頑張って走ったので、ここからはひと休みして歩くことにした。ここはいつも夜が明けてから通過するので結構車には気遣うが、夜は車もほとんど通らないので道路端に寄らなくて済む。明るいオレンジ色の灯りが見えて来ると「岩瀬橋」だ。周りは暗くてはっきり見えないが、端に寄ると足を引っ張られそうな気分になるので、橋のど真ん中を通った。渡り切ると古い「岩瀬1号トンネル」が待っている。路面は粗く、水がポトポトと落ちているところもある危険なトンネルだ。「岩瀬2号トンネル」「岩瀬3号トンネル」と同じようなトンネルが続く。走ったり、歩いたりを繰り返しているうちに左にバンガローが見え、右にはドライブイン「みぼろ湖」の灯りが眩しい。この先、緩い下りと平坦は走り、少しでも上っているように見えると歩いた。しかし、暗闇の中では判りにくい。

そんなことを繰り返しているうちに「大サコ橋」を渡ると「荘川桜200m」の看板が見えた。薄青色の「宮谷橋」を渡った先が「荘川桜」だ。明るければ突然現れる荘川桜だが、真夜中だといつの間にか荘川桜の下に来ていたという感じだった。

荘川桜（39．8km）　　4月28日　　21時28分

荘川桜というまさに象徴の場所でありながら外灯は全くなく、真っ暗で何も見えない。手前の「照蓮寺桜」、その向こうの「光輪寺桜」、上を見上げても真っ暗で何分咲きかわからないが、まだつぼみではないだろうか？。樹齢４５０年、人間の寿命をはるかに超えて生き続けている奇跡の古木も、夜になると存在感が薄くなっている。せめて外灯くらい点けて欲しいものだ。その先にトイレがあるので、そこでひと休みする。人が近付くと外灯が点るようになっていた。補給のため、蛭ヶ野で買ったバナナブッセを半分食べる。貴重な固形食物だ。

昼なら左前方に白山が見えるが、真っ暗で一体ここは何処なんだ、みたいな気分になる。また走ったり、歩いたりを繰り返す。ダイナランド前で貼った傷テープが効いているのか、左足裏の角質の痛みは消えていた。それよりも今度は左の脹脛が張ってきた。時たま大型トラックが音を立てて迫って来ると、道路脇に避けるように張り付く。夜中にひとりで進むと、車は避けないという前提でないと危険だ。ようやく「尾神橋」に差し掛かる。御母衣ダム湖畔では一番長い橋で左のＶ字谷から急に冷たい横風を受ける。この橋を渡る時はいつも独特の緊張感が漂ってくる。不思議だ。古くなった尾神１号から３号までのトンネルは路面も粗く、進み難い。

目の前に明るいオレンジ色のライトが迫って来た。１１０６mの「福島保木トンネル」だ。今までの道中からすると、この明るさは異常とも思え、別世界に入ったような感じになる。トンネル内は空気が流れないので暑いが、ここは頑張ってできるだけ走った。少し古くなった「福島１号トンネル」を通過した後、昼ならダム湖側に出るのだが、真っ暗でトンネルを避ける何て不可能だ。今どの辺りにいるのか、全くわからずしっくりこない。「福島２号トンネル」を越えると昨年、雷雨で雨宿りした場所だったことを思い出す。新しくなった「福島３号トンネル」内のライトは白っぽくて、元気をもらえる色ではないように思えた。トンネル内では勢い良く流れる大きな水の音が耳によく響き、ずっと続いた。

御母衣ダム（47．5km）　　4月28日　　22時40分

トンネルが新しくなって、トンネルを出た瞬間のイメージが夜でもあり、全然違うように思う。気温は9℃だったが、白山下ろしの冷風を感じるようになった。ここからは急な下りのヘアピンカーブがＳの字に続く。結構きつい坂だ。はるか前方にも路面温度計が見えるが、あんなところまで行かなければならないのか？、幻覚ではないかと思う。実際下って行くとそこがヘアピン部分だった。真っ暗でロックフェル式の壮大な「御母衣ダム」は全く目にすることはできない。昨年は雷と強風、大雨で横の「御母衣電力館」で2時間半待

機していたことを思い出す。その点、今年は有り難い。電力問題がいわれる中、水力発電所の役割は大きく、トラブルがないことを祈る。

下り終わったところに重厚な和風旅館「御母衣旅館」があるが、2階の各部屋の電灯は点いていた。まだ23時頃なので、お客さんが起きていても不思議ではない。その向かい側に自販機がある。牧戸以来の自販機だ。ここでアスパラドリンクとヨーグルトを飲む。水は飲み続けて来たが、久し振りに栄養のある液体を飲んだという感じだ。国の重要文化財「遠山家」がうっすらと見えた。この付近は歩道があるが、足を引っ掛けると危険なので車道の隅を進む。荘川桜を越えてからは時々大型バイクが通るようになっていた。バイクは飛ばすので怖い。

前方の旧道に入って行くY字路には「大白川の湯・平瀬温泉」のモニュメントが光り輝いていた。鮮やかだ。ここから旧道に入り、平瀬温泉街に進む。静かな山間の温泉らしい雰囲気だ。この辺りは元気に走れていたが、左脹

ら脛と太股が張っていたので、道端を流れている冷水を掛けると何と気持ち良いことか。過去に何回か足湯に浸かったことのある「くろゆり荘」前で足を止める。靴下を脱ぐとマメの原因になりやすいので、温泉の湯で顔を洗うだけに留めた。先に進むと道をウロウロしている温泉客数人の影が見えた。今の時刻は11時半だ。

「平瀬温泉バス停」があった。横には佐藤良二さんが植えられた桜もある。予定よりも早いのでこのバス停内で仮眠することにした。残りのバナナブッセ食べて、0時までの約30分間横になったが、目を瞑っていただけで寝ることはできなかった。先に進もうとすると向い側にもバス停があり、こちらは真新しく木の臭いがするバス停できれいな造りだった。ウォシュレット付きトイレもあり、こちらで横になったら良かったと悔やむ。どちらもバス停の戸が閉まるので寒さはかなり凌げる。

平瀬温泉街を越え、再び坂を上ると国道156号線に合流する。車は滅多に通らないので、前から車が来た場合に気が付きやすいよう道路右側を走ったり、歩いたりしているうちに「新平瀬トンネル」を通過。このトンネル内は明かりが全くないので、昼も夜も真っ暗だ。小さな水車と水舟のある「白川郷深山豆富店」で水の補給をする。さらに進むと「帰雲城跡」の看板も見えて来た。夜中に像を見るのは気持ち悪く感じるので、見ずに通過する。上空を眺めると澄み切った空に無数の星群を見ることができた。久々に見る素晴らしい天空の姿で、何とも表現できないくらいの美しい夜空だった。

左の山手に関西電力の発電所の看板が見えた。水力発電所だと思うが、庄川沿いはダムと発電所が本当に多い。「シッタカ橋」を渡り、さらに進むとやっと明るい外灯の付いた「野谷橋」を渡る。昼なら、ここから見る白山の眺めは素晴らしいのだが、真っ暗で何も見えない。

昨年はこの付近から左足底が尋常でない痛みに襲われ、前に進めないくらいの状態になっていたことを思い出す。それに比べて今年は何も起こらずに前進できていることが有り難い。見えないが右側に「鳩谷ダム湖」がある雰囲気を感じた。この先は長い下りがあるが、快調に走って下って行くことができた。洞門を越えると橋が見え、渡った右にトイレと自販機がある。

喉が渇いたのでアイスコーヒーを買って飲むとむかついて吐いた。食べていないので固形物はないが、結構な水分量だった。この先が心配になる。少し先にある白川郷のコンビニまで行けば食べられるので、その後に薬を飲むことにした。真正面にはトンネルが見え、さらに頭の上には東海北陸道の高架が見える。暗くて見えないが「白川郷合掌集落」の石碑前のT字路を右に進み、合掌集落へと入って行く。

白川郷分岐「合掌集落」(63．7km)　4月29日　1時39分

静まり返った真夜中の白川郷に人影はない。当然のことだが・・・。頭上はるか向こうに見える山の中腹を東海北陸道のオレンジの明かりが見え、もう一段下にも高速が見えるが、白川郷インターだろう。高速とはいえ凄いスケールだ。合掌集落のメイン通りを進み、「白川橋」を渡って右折するとデイリーヤマザキの明るい看板が見えて来た。やっとコンビニに有り付けたという感じだ。白川郷のコンビニは蛭ヶ野と福光の中間にあり、ここは本当にオアシスだ。なければ確実に先が思いやられる。店内に入って、おむすびチャーハン、塩ラーメン、シュガートーストを買う。シュガートーストは福光までの唯一の食料だ。店主曰く「昨日は白川郷も暑かった。先週のネイチャーも暖かかった。やっと暖かくなったが、この冬は本当に気温が低くて寒かった」と話されていた。

少し寒いが、店外のベンチでおむすびとラーメンを食べる。温かい白ご飯があれば最高だが、そんな訳にはいかない夜中のひとり旅の身。腹ごしらえできたので、一昨年のさくら道でタマゴンさんから頂いた吐いた時に飲めば、すぐに利くという薬を飲む。非常に苦い薬だったが、利いて欲しい。これからは気温が下がるので半袖シャツを重ね着する。時刻は2時を少し回っていた。予定より30分早いが、進めるだけ進むことにした。

国道から離れ、旧道を進む。この旧道沿いには白い建物の昔ながらの「白川村役場」もあるが、真っ暗で何も見えない。静まり返った中、勢い良く流れる水の音だけが聞こえてくる。国道156号線と合流するところには「飯島八幡神社」が左にあり、国道を隔てた右に道の駅「白川郷」がある。気温は7℃まで下がっていた。道の駅には寄らずにそのまま直進するが、昨年のことが思い出される。よくぞここでひと晩過ごしたものだと・・・。しかし、あれ以来わずかながら体調が悪くなり、なかなか回復しなかった。1年経った今でも、無茶したものだと思う。

左に折れ曲がったかと思うといきなり「飯島トンネル（1873m）」に入って行く。2009年以来、3年振りの飛越峡合掌ラインだ。トンネル内は水も落ちておらず綺麗で、例の如く右側車道を進む。車のゴォーという音が聞こえると車がトンネルに入ったのがわかるので危険は感じない。車が来れば歩道には上がらずに、車が少ないので左側車道を進むようにした。走れそうだったので半分以上は走ったが、トンネル内には通過距離と残り距離表示がなかった。前はあったと思うのだが、どうしてなくなったのだろうか？。数台しか車は通らなかったが、白川郷方面向きの方が多かった。トンネル内は時間的にそれほど暑くは感じなかったが、頑張って走ると暑い。トンネルを出ても真っ暗で何も見えない。昼ならコバルトブルーの庄川のせせらぎが鮮やかなのだが、見えずに残念だ。

トンネルを出ると洞門に変わり、次は「新内戸トンネル（1322m）」が待っている。ここも半分走って、半分歩いた。このトンネルは昔から雪解け水が落ちないので歩道は綺麗だった。新内戸トンネルを出てすぐが「椿原橋」。槇原橋はまだ工事中ながら、新しい橋に変わっていて、大きくて丈夫な橋になっていた。トンネルを出て間もなく急な下り坂があり、その先にはひっそりとした山間にひなびた椿原の集落がある。いつもどんな生活しているのだろうと思ってしまう。

そこを越えると椿原第一洞門から椿原第六洞門まで、次々と洞門が続く。トンネルより、洞門が続く方がきつい。半分走って半分歩くを繰り返す。車は時たましか来ないので、思いっ切り道路真ん中を進める。この方が安全だ。辺りに水が出ていたら、必ず左側太股と脹ら脛のアイシングをした。足がパンパンに張らないのはアイシングのお陰、それで走れていると思う。この辺りから時々バイクも通過するようになっていた。

確かこの辺りに「飛越峡合掌ライン」の表示があるだろうと思いながら進む。この先は橋を渡る度に岐阜県と富山県が交互する。開けた広い道路を過ぎると、ようやく最後の「加須良トンネル（1038m）」が目の前に迫って来た。このトンネル内は水がポトポト落ち、歩道は部分的に滑りやすく思えたが、歩道に上がることはなかった。

加須良トンネルを出ると少し青みが帯び始めたような気がする空に「合掌大橋」がわずかに見える。本当に大きな吊り橋だ。合掌大橋に一歩入ってから、橋の途中までは富山県だ。ようやく富山県に入ったことになるが、すぐに岐阜県に戻る。その先の「飛越橋」手前で再び富山県に替わった。少し進むと長い下り坂があり、下り終わったところに小白川の集落がある。この辺りから風が冷たくなって来た。水が底をついたので民家の庭先から出ている水を探すが見つからなかった。「小白川橋」を越えて少し進むと緩い下りが続くが、ここからの路面はボコボコ状態で目が粗くなっており、走りにくいために歩いた。歩道も車道も一面粗く、走ると疲れた足に相当くる。徐々に明るくなってきた。

進みにくかった下りも終わり、「渚橋」を渡ると右側はダムのようで庄川にはたっぷりと水が溜まっていた。道の駅はダムを越えたところにある。

道の駅「上平ささら館」(81．2km)　4月29日　4時27分

日の出が5時だったので、それに間に合うようにと思っていたが、予定より30分早く、それでも十分明るいと思わせる状況だった。最近は日に日に日の出が早くなるようだ。自販機でアスパラドリンクを飲み、トイレ前のベンチで休む。白川郷で買った貴重な食料であるシュガートーストを1／3切って食べる。水分がなくなったので、前に水が出ているところがあり、そこでペットボトルに補給する。この辺り、暗くて見えなくても過去何度も通ったことが学

習されていた。

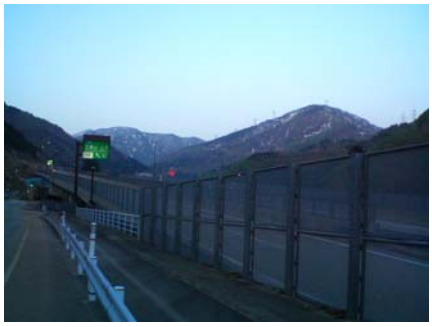
道の駅を出て、すぐ左側に「行徳寺」と「岩瀬家」が並んでいる。写真を撮るが、光が十分に取り込めないため、ボケ写真になってしまった。岩瀬家の前には車がたくさん止まっており、前の水田いっぱいに水芭蕉の白い花が顔を出していた。分刻みで明るくなって行くようで、「新屋橋」を渡る。「民謡歩道」と呼ばれ、4つのボタンがある。それぞれで違う民謡が流れるが、ボタンを押して歩道を歩いていてもなかなか流れないと思っていたら、

真ん中付近まで来ると急に民謡がスピーカーを通して大きな声で鳴り響くようになった。橋を渡り切ってもまだ鳴り止まず、過去にもこんなことがあり、「そうだったなぁ～」と思い出し、早い時間だけに恐縮する。橋

を渡って間もなくのところに「道善寺」という立派なお寺があった。

ここからは長い上りが続く。目の前には「五箇山インター」が迫り、立体交差の下を潜る。その後、国道156号線と東海北陸道の路面が高さまで並行になるところがあった。山を仰ぐと斜面の谷間には残雪がかなり残っているようだ。路面が粗くなり、車はほとんど通らないので車道を進むが、車が多くなると歩道はデコボコで足元が気になるところだ。

先ず、合掌作りの「青少年旅行村」を眺め、写真を撮る。庄川、桜、合掌集落のコントラストは見事で、庄川のコバルトブルーは本当にきれいだ。桜は少し散ってはいるが、まだまだきれいだ。この先の短い洞門は外側に歩道があり、雪解け水が大きな音を立てて流れ落ち、大き



な雪の塊がいくつもあった。それにしても路面のデコボコは足に応える。その先には世界遺産「菅沼合掌集落」が見えて来た。うっかりすると先の青少年旅行村を菅沼合掌集落と勘違いしてしまいそうになる。菅沼合掌集落は上から見下ろしただけだが、綺麗に整備され、整然としていた。時間はまだ5時過ぎだ。

この付近からは路面の粗い下り坂があるが、足が棒になり、思うように下れなかった。下り終わったところが旧上平村役場の南砺市「上平行政センター」だ。かなり疲れているので、道端に腰を降ろしてココアを補給し、アイシングする。左前には「くろば温泉」があった。まだまだ早朝で車は少ないので、歩道ではなく車道を我が道の如く進む。左の「小原ダム」の緑の水面は穏やかで気持ち良い。ここでトンネルに入るが、この辺りから大型バイクがアクセルをブルンブルンいわせながら、通り始めた。

青色の「小原橋」を渡る途中に右を見ると土手下に合掌造りの家と桜があり、何ともいえないうっとりさせてくれる雰囲気だった。小原橋も「民謡歩道」だが1曲だけしか鳴らない。しかし、今回ボタンを押しても何も鳴らなかったので故障しているのかもしれない。大きなRの「湯出島橋」を渡り、振り返ってみると山頂がかなり雪に覆われた山が真正面に見えた。

その頃、時間は朝6時過ぎに関西電力からマイク放送が流れた。「上流でダムの放流を行いますので、川に入られている方はすぐに川から上がり、安全なところに移動して下さい」という内容だった。上流のダムとはすぐ上の「小原ダム」か、道の駅・上平ささら館横の「鏡川ダム」しかないが、この時間、肌寒い地域で川に入っている人はいないと思う。釣り人ならわからないが・・・。その後、関西電力の車が巡回していた。

観光地「こきりこの里」が見えた。まだ6時過ぎでほとんど人気はない。先ず、国指定重要文化財「村上家」を眺める。重厚な合掌造りの家、横の

小さな桜木が並んでいるだけで鮮やかだ。その先には「白山宮」があった。造建年代は1502年の富山県内最古の建築物ともいわれているそうだ。昼なら人もいて、食べるところもあるのだが、早朝に通るのは何とも悲しい。早朝散策の人、数人とすれ違う。

先を急ぎたいので、「上梨トンネル（1040m）」内は半分くらい走り、その後は上りが待っている。今までにないほどバイクが多い。間もなく待ち構えている五箇山の上り坂が迫って来たかと思うと、心が折れそうになる。6時半でも日差しが強く、喉も渇いた。下梨は近いようで、ぐるっと回らなければならないので意外と時間が掛かる。下梨信号の手前でひと休みする。2／3残っているシュガートーストは缶コーヒーを飲みながら半分食べ、ウインドブレーカーと重ね着していた半袖シャツを脱ぐ。シュガートーストはあと1／3だけ残した。仰げば急坂、暑くて辛いことだろう。6時半の予定が20分オーバーしてしまったようだ。

下梨（92．9km）　　4月29日　　6時51分

ここから梨谷トンネルまでが最大の難所の上り坂だ。空気は涼しくて気持ち良いが、影がなく直射日光が強烈で、汗を拭きながら必死で上る。左に見難いが真っ白な山が見える。白山ではないか。五箇山の上りに入ってから、数人でコーナリングを楽しむバイク集団が急激に多くなり、車と違ってセンターラインを平気でオーバーするので危険極まりない。バイクも2種類あって、純粋にツーリングを楽しむグループは安全運転を心掛けているが、そうでないアクセルを回し、ブルンブルン云わせながら走るグループは危険でタチが悪い。バイクも車もそうだが、五箇山を下って来る数の方が圧倒的に多い。きつい上り坂の途中には疲れを癒してくれるような色とりどりの花が植木鉢や軒先に植えられていた。富山はチューリップで有名だが、チューリップは取り分け鮮やかだ。本当にこの季節は花を見るのも楽しい。

下梨から20分歩くと「相倉合掌集落」の入口に辿り着けた。合掌造りをイメージしたバス停で少し休む。上りも半分近くまで来られたが、ここからがきつい。道路脇には大きな雪の塊や影になる土手には残雪がかなりある。こ

の冬、気温が低かったせいだろう。バイクの往来は相変わらず多い。その頃、左前方に青空の下、雪で白く覆われた綺麗な山並みが見えて来た。白山だ。小来栖という集落には自販機が道端にあったのだが、横の店が閉店し、自販機もなくなっていた。右に回る大きなカーブを曲がり切ると黄色の屋根が見えた。トイレと自販機だ。一旦、ここで上りは終わる。缶コーヒーを飲みながらひと休みする。

この先の「梨谷トンネル（８１２ｍ）」が目の前に見える。上り疲れで最初は歩いたが、途中から走った。ただ、車とバイクの往来があると歩道を歩くしかなかった。トンネルを出ると目の前には雪で覆われた山斜面が現れた。下の谷を覗き込むと吸い込まれそうになる。ここは日当たりが悪いので残雪でいっぱいだ。左の「たいらスキー場」も相当雪が残っていることだろう。目の前には赤の欄干が鮮やかな「梨谷大橋」が迫って来る。その先にある五箇山トンネル入口は神棚に続く参道に見え、赤の梨谷大橋はその表玄関と

いった感じさえし、五箇山はまさに神の山としか思えない。ここに立つと場所柄と雰囲気が独特で神の前にいるみたいな気持ちにさせられる。梨谷大橋を渡る時は下を見るのが恐怖で端に寄れなく、いつも車が来ないことを祈るばかりだ。

橋の真ん中辺りに来るとクチバシのような威圧的な形をしたトンネル入口に吸い込まれそうになる。さくら道名物「五箇山トンネル」に入る。何と３０７２ｍもある長いトンネルだ。何度目になるか。いつもと比べると車やバイクが多く、右側車線を走り歩きしながら、ライトが見えたら歩道に上がった。歩道はかなり汚れ、トンネル内に落ちてくる雪解け水で濡れているところも多く、進み辛かった。

概ね半分走って、半分歩く感じだ。途中の左側に外から出入りできるところがあるが、外の積雪量はいつもよりかなり多いように思えた。残り距離が減ってくると走ることが多くなってしまう。

五箇山トンネル出口（101．3km）は8時24分に通過。トンネル内は17分06秒掛かっていた。出たところで腰を降ろし、ひと息付いて水分補給する。ここから約4kmで300m以上ある下りを走れるか、それが一番の問題だ。スムーズに走ることができなければ、この先は赤信号となる。腰も痛いし、両足はかなり張っている。怖々走り出すが、ゴツゴツしてロボット走り気味になっていた。後の山を見上げれば、かなりの雪を被っていた。走るには走っているが、何度も立ち止まったり、歩いたりを繰り返す。精魂尽き果てたような状態だった。

日差しの強さも災いし、下界の暑さに耐えられないだろうと完全に弱気になっていた。そんな時、「福光で止めてバスに乗ろうか？」から、次第に「バスに乗ってしまえ！」になっていた。そう思うと「もうゆっくり歩いて福光まで行けば良い」になってしまう。それでも走っては歩き、止まるを繰り返して下り終えられた。田植えの準備で代かきしているトラクタの姿があちこちにあった。喉が渇いたので缶コーヒーを飲み、大鋸屋交差点を通過する。

城端・大鋸屋（106．5km）　　4月29日　　9時08分

そろそろ暑苦しくなってきたので、半袖シャツとランパンになる。身軽くなって、すっきりした気分だ。残っていた最後のシュガートーストを食べる。よくぞここまで持ってくれたものだと思いながら、味を噛みしめる。クリームが入っているパンよりは食べやすい。この時、早く金沢に着いても荷物が金沢ゆめのゆに届くのは14時～16時にしたので、早く着いても意味がないことに気付く。ワープしないという前提のスケジュールにしていたためだ。状況を見ながら考えるしかない。「越中の小京都」城端の町並を通過する。9時過ぎだが、日曜日ということもあり、きれいな町並に人の姿はほとんどない。当然、店も開いていない。日陰を選んで進む。そして、

左の奥まったところに茶色瓦の「城端別院善徳寺」の山門が見えた。開基から530年余りを経た浄土真宗大谷派の大刹だ。

突き当たりのT字路を左折して「城端橋」を渡ると右側に城端線最終駅の「城端駅」が見えた。この辺りは陽を遮ってくれるところがない。この先の旧城端から旧福光に入るところにはコンビニがあるので、ようやく何か食べられると楽しみにしていた。場所はわかるのだが、遠くからでも見えるコンビニらしき看板が見えない。どうしたことか？。近づくとそれはファミリーマートではなくなっていた。建物はそのままだが、壁の色は真っ白でトラックが何台も置かれていて運送業か、配送業の会社に変わっていたのだ。

振り返って見ると確かにここを通るには3年振りだ。自分の記憶の中にあるのは3年前で、そりゃ3年も経てば世の中が変わっていても何ら不思議ではないのに、自分の頭の中では止まっていた。かなりショックだった。もう足が動かなくなってしまった。東海北陸道の福光インターのところの車道と歩道の境界には一面紫の花壇になっていて、鮮やかさが気持ち良かった。そんな時、目の前にヤマザキディリーストアが現れた。この店は夜閉店のようだが、先ほどのショックが一気に和らぐ。固形物は喉を通らない感じがしたので、缶ビールと出し巻玉子で喉と腹を潤す。美味しい。間もなく終えられると思うと、休めるだけ休もうかという気持ちになってしまった。

すぐ先に9年前まで、さくら道で私設エイドをして下さっていた「松島燃糸福光工場」があった。このご時世で工場の経営はどう何だろう。さくら道ウルトラが開催されていた頃はいつもエイドを出して下さっていた。2003年さくら道ではそばとビールを頂いたことが走馬灯のように思い出される。この先の歩道は狭くて凹凸が多いので歩くことにした。「南砺市役所福光庁舎」前に来ると富山を象徴するかのように綺麗なチューリップの花壇があり、しばらく眺めていた。福光駅前を左折すると「坂上松華堂」がある。さくら道ではお世話になった和菓子屋さんだ。通り過ぎた先が「福光橋」だ。「小矢部川」の流れは緩やかで、遠くには雪を被った山々の姿があった。

福光橋（114．4km）　　4月29日　　10時52分

すでにバスに乗ることは決めていたので、金沢行きのバス時刻を確認すると福光が12時40分頃だったので、これに乗ることにした。少し行くと東町の信号があり、ここで右折してバイパスに出て、また左折する。この付近は福光の郊外で店が並んでいるところだ。かつては「楽蔵グリーンモール福光」と呼ばれていたところに波多パパ＆ママの店があるが、今の名称はわからない。場所は変わらないが、横には小振りの最大手「ヤマダ電機」の店ができていた。3年振りなので変わっていても何ら不思議ではないが、以前とはだいぶ変わったように思えた。波多パパ＆ママの店の場所が気になったが、以前と何も変わってはいなかった。隣にはバロー(valor)が営業していた。以前もバローだったか不明だが、最近は滋賀にもバローがだいぶ進出している。

波多パパ＆ママはとても元気で、以前いた若い女性は辞められたそうで、忙しくてどうしようもないと話されていた。ネイチャーランでのダブルさんの好タイムでのゴールに波多パパはえらく感動され、同い年でもこんなにも違うものかと話されていた。飲み物を頂いて約30分休ませてもらう。その後、バローで「ねぎとろ中巻とそばセット」を買い、店内のベンチに座って食べようとした。しかし、喉に通らず、何とか寿司だけは無理矢理口に押し込んだが、そばは手付かずで捨てた。この時点で11時40分なので、バス停の時刻を見ながら、行けるところまで行くことにした。歩いても6～7kmは進めるだろう。

2万5千分の1の地図を見ればバス停に印があったのだが、全然見ずに進んだので、どこにバス停があるのかわからず、現在時刻を考慮しながら、バスが来れば必ず香林坊には行くので、とりあえず香林坊で下車して、佐藤桜に戻り、金沢ゆめのゆに行くことを考えた。もう気持ちの上で走れなくなっていた。道の駅「なんと一福茶屋」前を通過し、バス停でバスの時刻を確認する。日差しは相変わらず強く、太陽は真上で遮るものはなく、暑い。

右前方に「華山温泉」が見えて来た。休まないようにして先を急ぐ。左に「川合田鉱泉」という温泉施設が見える。この先は一気に田園地帯が延々と続く。もうトンネルではないかと思ってもなかなかトンネルまで辿り着けない。左カーブした前方にやっと「新蔵原トンネル」が見えた。トンネル入口周辺の新緑が鮮やかだ。この時間、車もそこそこ通るが、歩道は雪解け水が落ちているせいか、ぬかるんでいるところが多かった。全長427mだが、久し振りだったせいか、もっと長く感じた。喉が渇き冷たいコーヒーでも飲みたいのだが、いざ探そうとすると見つからない。

蔵原にもバス停があったが、パスすると集落を越えてからが長かった。日差しはますます強まり、頭がボォ～となっている。左前方にバス停らしき小屋が見え、近付くとやはりバス停だった。自販機があるのは確かこの先だと思うが、この先どこにバス停があるのかわからず、バスに通り越されてはいけないので、ここJRバス「上砂子谷」バス停にてリタイヤすることにした。時刻は12時50分だった。

上砂子谷バス停（122．1km）　　4月29日　　12時50分

コンクリートに尻を下ろし、足を伸ばして筋肉の疲労を取る。もう終わったかと思うと気が楽だ。15分ほど時間待ちすると少し遅れてバスがやって来た。バスには2、3人しか乗っておらず、新しいさくら道のコースを県境に上って行く。旧道とクロスするところで左折し、わずかだけ旧道に入って行った。バスは「兼六園下」から「香林坊」とアナウンスされたので、「兼六園下」で降りれば、そのままネイチャーランの花道から、1500本佐藤桜まで進んでいけるのでラッキーだと思った。

元の道に戻ると道路の拡張工事で片側通行となっていた。この付近は歩道のない危険な道だが、拡張されたら歩道ができるのではないかと思う。そうなれば走りやすくなる。くねくねした農村部のアップダウンを進むと古屋谷町に出た。過去、この付近はいつも

真夜中に通り、一番苦しく、先がどうなるか先々不安になるところだ。ところどころに歩道はあるが、あっても転倒の危険のある進みにくい歩道だ。バスは森本手前で左に迂回してから森本駅に入って行った。この付近から乗客はわずかに増え始める。

森本駅経由でさくら道コースを通り、浅野川手前左側に有名な「ひがし茶屋街」の姿が見えた。テレビでよく見掛ける景色そのものだった。この付近から辺りは観光客で溢れていた。橋場から兼六園下に向かうと更に観光客の数は増え、バス停も凄い行列ができていた。「兼六園下」でバスを降り、兼六園の桜並木の坂を上る。店の周りは人でいっぱいだ。喉が渇いたので冷たい缶コーヒーを飲み、金沢城を眺める。聞き慣れない中国語があちこちから聞こえ、中国人観光客もかなり多い。そして、移動に便利なよう、貸し自転車を使っている人も目立つ。

真面目に観光客達は歩道を歩かれている中、私は車道の真ん中を進む。実際、車は通らない。まさにネイチャーランの花道となる桜並木の中で、下った端の方に佐藤桜はある。提灯と桜の木々がとてもマッチしている。やっと見えた。久し振りというか、6年振りの「1500本佐藤桜」との再会だ。時刻は14時1分。内心弱気になっており、もう再会できないかと思っていただけに嬉しさがこみ上げてくる。タッチするのを忘れたことが残念だった。兼六園といえば「日本三名園」のひとつで見事な庭があるようだが、見たことはない。

下り終われば右に曲がった先に「香林坊」の信号がある。ここを右に曲がると観光客も多いが、ビルが建ち並ぶオフィス街だ。人のいるところではできるだけ走るようにするが、前の人が邪魔で歩いたり、走ったりの繰り返しだ。目に付くのが自転車で散策している観光客らしい若者が多いことだ。「むさし」で左折して「むさし西」へ。そこで再び左折する。この付近までは人も多かった。ここからはただひたすらに北陸自動車道方面に進むだけとなる。

むさし西を過ぎてからは歩道も狭くなり、人も激減した。さくら道の時は二口町まで進むと右折したが、金沢ゆめのゆは真っ直ぐに進まないといけない。周りの人が減ってからはほとんど歩きになってしまっていた。まだ14時30分と早い。走って進む必要もない。JRの高架下を潜り、幾つ目かの大きな交差点が「二口町交差点」だった。ただ長かったという言葉しか出ない。もうゆっくり行こうだ。

定番コースになっている「マックスバリュー」に寄って、安い500ccの缶ビールと串カツを買い、店内のベンチに座って食べる。高い物が贅沢ではなく、缶ビールに串カツ、合わせて223円が今の私にはもの凄く贅沢に思える。これでは物足りないので、そのすぐ先にある「すき家」にも寄る。昨年は頼んだ順番を間違われて気分を悪くし、牛丼を注文しながら店を出て行った苦い思い出があるが、今年は15時を回ったところで店内は空いており、トラブルなく美味しく牛丼を食べられた。

真正面には一体となった「北陸自動車道」と国道8号線バイパスが見える。そこを越えてから少し行き、左折すれば「金沢ゆめのゆ」までは500m弱だ。もう何も慌てることはない。ゆっくり行けば良い。住宅街を左折したが、

1本早く曲がったらしく途中から1本先の道に進み、そして、ゴールの「金沢ゆめのゆ」正面に15時45分に到着。誰も迎えてくれる人のいない、たったひとりの2012年さくら道は無事終えられた。

金沢ゆめのゆ（128．3km）　　4月29日　　15時45分

■金沢ゆめのゆにて

何度も来ているので店内は熟知している。館内は休日で混んでいるように思えた。先ずフロントで届いていた荷物をもらい、汗とホコリで汚れた荷物の整理をする。これはいつも通りのパターンだ。必要な物をバッグから出して、またフロントに預ける。昨年はさくら道ウルトラ遠足参加者の控え室に紛れ込み、そこに荷物を置かせてもらうという厚かましい行為をし、自分でも猛省した経緯がある。その後は3Fの温泉へ。身体が火照っているので、汚れた身体を洗って、ぬるめの温泉と水風呂に交互に入るようにした。

風呂から上がって、17時半には早めの夕食。サーロインステーキが目に付き、ご飯と生ビールを頼む。肉が食べたくなっていた。合計1580円だが、肉はかなり美味しく、ご飯がなくなった後、生ビールのアテには最高だった。牛丼を食べて2時間くらいだったので、これくらいがちょうど良かった。お食事処には4台くらいのテレビがあるが、関越道で高速バスが大事故を起こした映像が流れていて、凄い壊れ方に驚く。何人もの人が亡くなり、重傷者も多いようだ。だが頭がボォ～としているので、もうひとつ何が何だかわからない。

食べ終わると新聞を見たりしてゴロゴロしているうちに、ウツラウツラして眠たくなってきたので、19時頃から3Fの雑魚寝場所にタオルケットを持って寝に行く。なかなか眠れなかったので横になってテレビを見ていたが、「イッテQ」はなかなか面白かった。番組が終わった頃に2Fに降りて定番の塩ラーメンを食べる。ここの塩ラーメンは私の口に合っていて美味しい。その後も何度かトイレに行き、知らず知らずのうちに寝ていた。

朝は4時に目が覚めたので、掃除中で人の少ない温泉に入り、一緒に送っていたPCでブログの文面を書く。8時に出発したが、昨日のバス事故のことが気になって新聞を見ると、金沢発の高速バスが大事故を起こし、地元とあって大々的に載っていた。7人の方が亡くなった大惨事で壊れたバスの姿が尋常ではなく、座席が外に飛び出しているのには驚かされた。あまりにもショッキングな写真だらけだった。

■金沢からの帰路

8時15分頃に金沢ゆめのゆを出発。汗で重くなった荷物を肩にして、「藤江」バス停に向かう。少し待っているとバスがやって来た。祝日の朝だというのに車内の席は満席で立っていた。途中、バス停はたくさんあり、JR高架手前の「中橋」バス停で降りる。ここから歩いていつも通り、金沢駅に向かう。兼六園方面のバスばかりで、金沢駅行きのバスが全くないのは不便だ。

まだ朝食を食べていなかったので、金沢駅構内の「吉野家」で朝食を食べる。金沢ゆめのゆの朝食は美味しくないので、ここまで辛抱した。ハムエッグ定食を食べたが、美味しかった。金沢駅10時発の電車が来るまで時間があったので、推理小説を読んで時間を潰した。缶ビールにつまみを買うが、鈍行での帰路は長い。先ずは福井駅までで、福井では約40分の時間待ちがあった。ただ、次の電車が10分前には入って来るので、それほど長くは感じない。

次は敦賀。ここで30分の時間待ちがあり、ここからは新快速だ。ただ湖西線経由になると運賃が高く、また山科での乗り換えでは座れないので、元々、びわ湖の東側を走る琵琶湖線経由で帰るつもりだった。こちらの方がゆったりし、混まないので楽だ。金沢を出発して5時間半後に家に着く。半袖で帰ったが、ちょうど良い具合の天気だった。

■11回目のさくら道を終えて

帰って来て思ったことはあまりにもダメージのなかったさくら道であったこと。距離は確かに短かったが、全くマメができなかった。城端に入ってからは諦めモードになってしまい、モチベーションが一気に下がったが、バスでワープしながらも1500本佐藤桜に辿り着きたいとの気持ちだけはあった。終わってみて、バスに乗ったことに悔いが少し残るが、白川郷を越えて、五箇山トンネルも自分の足で走り、波多パパ・ママにも会え、それなりの満足感を味わえた2012年ひとりさくら道だったように思う。

蛭ヶ野から上平・ささら館の間が夜で、メインの雄大な景色を見ることはできなかったが、夜故に気持ちが折れずに頑張って進めたともいえる。距離は様々だが、今年で11回目のさくら道を自分の足で踏みしめたことになる。10回の区切りで止めようかと昨年思ったが、こうやってさくら道を走らせてもらえることは有り難いと思っている。

さくら道があるから、気力もそれほど衰えないのではないかと思う。映画「さくら」を見て感動し、さくら道に恋いこがれてから18年経ったことになる。その分、私も歳を食ってしまった。けれどもさくら道に立った時、初めてさくら道ウルトラに参加した時と走力とか、推進力とかは別にして、本質的には変わっていないつもりでいる。

佐藤良二さんの顕彰碑、蛭ヶ野分水嶺、荘川桜、御母衣ダム、平瀬温泉、白川郷合掌集落、飛越峡合掌ライン、管沼合掌集落、こきりこの里、五箇山トンネル、あの壮大でスケールの大きいパノラマは11年前と何ら変わりない。いつもいつも、さくら道ありがとう。